

在校生～保護者～OB 世代間 交流プロジェクト

第 21 回「三世代をつなぐ駒カフェ」開催の報告

保護者対象の第 21 回「三世代をつなぐ 駒カフェ」は、2023 年 3 月 11 日（土）13 時から 15 時まで、第 1 会議室にて、対面で開催することができた。Zoom で参加している駒カフェスタッフも会話に入ることができた。今回の「駒カフェ」は、以前にも参加したことがある保護者（高 2：1 名、高 3：1 名）の参加が 2 名、保護者対象の駒カフェ開催予定であったが、在校生（中 3：2 名）も 2 名参加してくれた。それぞれの保護者、在校生の 3 つのグループに分かれて、保護者とご息子との距離感、駒場東邦の生活のこと、学校行事のこと、部活動のこと、勉強のこと、将来のことなどを駒カフェスタッフがともに会話をする事ができた。参加者は、自分の思っていることの話をして、いつもと異なる人々と会話することで、「駒カフェ」終了後に、日頃モヤモヤしていることがちょっとでもスッキリしてくれたらと幸いである。

参加者の感想

- ① 本日は、突然の連絡にもかかわらず、参加させていただきありがとうございました。今回で 4 回目となりました。先輩(7 回生、39 回生、47 回生)方の体験談をお聴きし、駒東の学校生活や子どもの興味関心ある分野についてのヒントをいただきました。また、さまざまなところに種を撒くことや人それぞれ学ぶ時期のタイミングが違う話にはとても共感できました。初回は、成績や部活、中だるみの生活リズムや子どもとの距離感などただ心配ばかりして参加を決めました。今は、お互いに少しずつゆとりある気持ちで過ごせることが増えてきました。最後に、いつも温かく出迎えてくださるスタッフの方々に感謝申し上げます。お忙しい中、準備もありがとうございます。また参加

させていただきます。これからも7回生の先輩方とご都合のあう先輩がいらっしゃれば参加をお願いできれば嬉しいです。zoomでも短時間でも。

② 保護者として3度目の駒カフェに参加させていただきました。今回も駒東OBの方々や先輩保護者の方が子育てにおける悩みを聞いてくださったり、ご自身の学生時代や子育て、その後のお話などをお聞かせくださったりしました。いつも明るく温かい駒カフェのメンバーの方々に話しを聞いていただけるだけでホッとします。親身に時にユーモラスにコメントいただいたり、経験豊かな先輩方のお話しをお聞きしているだけで行き詰まっていた心に風穴が開くような気がして、まあなんとかなるか、と思えてきたりします。今回は、お若い駒東生が先輩方と世代を超えてお話ししている姿も見えて、こちらまで清々しい気持ちになりました。もし迷っておられたら是非駒カフェに参加されてみてはいかがでしょうか。とても懐の深い先輩方をお待ちくださっています。

③ (在校生) 人生設計や大学受験の話など、また全然わからないことを色んな人から聞いて、人によって視点が違い、多様性の重要さを知れた。自分がやりたいことを見つけるのはとても難しい。還暦でリセットされるって言うけど、それまで生きてきて染み付いた価値観、SNSの使い方とか、喋り方とか、常識とかがあるので自分達とは違うところがたくさんあると思った。おかしが美味しかった。中高生のうちに遊びまくりたいからもう年を取りたくない。大人になったら悩むことが多くて忙しそう。あと今の中三は身体的にも精神的にも成長中だけど還暦の中三は身体的に出来ないことが多くなっている。駒カフェ当日のスタッフからの声かけで参加した。

④ (在校生) あまり普段年配の方と話すことがないのでいい機会になった。思ったより話のスケールが大きくてびっくりした。ちょっと緊張した。昨日寝てないから眠かった。涼しかったから良かった。将来についてもうちちょっと考えてみようと思った。興味のあるものをもっと探してみようと思った。年の差を感じはしたが、60才も上となると、30才くらいの人と話すのとあまり変わらなかった。

った。チョコレートおいしかった。もっと元気な時にきたかった。駒カフェ当日のスタッフからの声かけで参加した。

OB スタッフの感想

- ① リモート参加で明るい高2 お母さまとの現場トークに混ぜて頂きました。ご子の興味に理解を示して自律を促す様子を、良い感じで親離れ子離れのスタンスを構築されつつあるようにお見受けしました。またご自身が社会復帰されたとのことで、その姿を見せることは子育てに区切りをつけつつある女性の社会復帰という、若者不足や人手不足に苦しむ現代日本社会の課題を考える契機になる気もしました。私にとっては初めて保護者版駒カフェでした。保護者の方々とは世代も近くこちらが学ばせてもらう場でもあり、OBとして自分の経験や同級生の例を話すことでは駒東保護者の皆さま、ひいては現役生諸君の道標に少しはなれたかなと勝手に納得しております。生徒と話すとはまた違う感覚で楽しい時間でした。
- ② 保護者対象の開催予定であったが、在校生も参加してくれた。それぞれのグループに分かれた会話をしていた。保護者とは、保護者がご子を思う気持ち、また、ご子の成長とともに変化する親子の距離感について、話をする事ができた。在校生も駒カフェスタッフと、日頃、話をしない内容の話をする事ができたようである。ひとつのことをいろいろな角度から見たり聞いたりすることで、今まで自分が思っていたことは異なる新しいものの見方に触れることができます。そして大事なのが、「さあ、自分はどうするのか？」と思ったことから実行してほしいです。
- ③ 保護者対象の会だった。参加して下さったのは二人 いずれもリピーターの方でした。話を始めると以前話したことを思い出した。とっかえひっかえスタッフがかわって話を聴き 話をした。心をゆるしてくれたのか かなり複雑な内容を語ってくれた。私は問題の解決になるようなことは示唆できないが お話を聴くことに努めた。二時間たっぷり過ぎていた。信頼されていると感じた。これからの駒カフェの力になってくださる方々と思った。また中三の生徒が二人来てくれた。二人

とも寡黙で話を引き出すのが大変だったが それでも二時間超えて参加してくれて感想文もたくさん記してくれた。決して嫌ではなかったんだと思う。駒カフェの現状を手放しで喜ぶことはできないがまずまず軌道に乗ったかなと感じている。

- ④ 今回は、保護者対象なのに、中三の生徒が二人来てくれました。多様性、類似性などについて話しました。未だ難しかったのか反応が弱かったので心配でしたが、感想文を見て安心しました。試験中で睡眠不足だったそうです。ただ一点だけ気になった事がありました。それは、夢中になれる事が見つからないと思っている事でした。どんなに苦しい時でも夢中になれる事があれば、それを頼りに体力的にも、精神的にも乗りきれるはずですので何としてでもそれを見つけて欲しいと思いましたし、もう少しの努力で生徒達も見つける事が出来ると信じています。もう一度二人が駒カフェに来ることを願っています。待っていますよ！
- ⑤ 今回は、顔に帯状疱疹を発症し入院したため、残念ながら参加することができませんでした。参加者やスタッフの感想文を読み、保護者や駒東生が日頃抱えている問題意識や心配事について多様な参加者同志で率直に語り合える場としての駒カフェの希少性を改めて実感しました。「夢中になれることが見つからない」という思いは、私自身の駒東時代の思いでもあり、こうした悩みの原因やその対応策の明確化に、寄り添い型のフォローのできる駒カフェの存在意義が発揮されることを期待したいと思いました。
- ⑥ 保護者の方が対象の駒カフェに初参加させていただきました。大学受験の結果が出ている中、新高3生は否が応でも受験を意識せざるをえない時期に入ると思います。今日お話しさせていただいたお母様は、保護者の立場としては気になりつつ、本人の思いを支持しつついると話して下さったように感じました。子どもの考えていること、思っていること、やりたいことに寄り添ってエンパワメントする大切さを、改めて学ばさせていただいたように思います。ぜひまたいらしていただいと、いろいろなお話をお伺いさせていただけると嬉しいです。ありがとうございました。

- ⑦ 足かけ2年目の3月、学年末、わたしには、やっと駒カフェのカフェとしての存在感を強く感じるひと時でした。感慨深さを感じました。最初の回にいらっしゃったお母様がまたいらっしゃり、子育ての様子を還暦中3の7回生とおはなしになる。複数回いらっしゃるといことは、会議室の無味乾燥な机にカフェのテーブルの心地よさを感じて、安心感を持って座っているのです。時間の経過を意識せずに楽しさを共有しておりました。時間を超越できるということは、そこに固有の文化が生まれたと言ってもいいのでしょうか？今回は、駒東文化を確信した次第です。駒東文化の核心に触れました。ゆっくりと、もっともっと心地よい駒カフェを育てましょう！
- ⑧ 保護者と在校生が参加した今回は、まさに「三世代のカフェ」になりました。ふだん「話しやすい相手」というと、年齢や共通する話題があるかなどを考えがちですよね。でも、「話してよかった」「色々尋ねたい」と思う相手は、年齢や経験値よりも、自分自身を尊重して接してくれる人ではないかなと思います。参加したテーブルで親子の会話のことなどを伺って、そうしたことを感じる時間でした。参加された方にとって、駒カフェが「世代のつながりの場」というだけではなく、「自分らしく居られる」「この人とまた話したい」と感じてくださっていたらとても嬉しいです。
- ⑨ 保護者対象で2名の参加に、中3生徒2名の飛び入り参加がありました。話題から3つのテーブルに分かれましたので、それぞれのテーブルを回りました。保護者テーブル1と2では、生徒の将来について、期待と心配が根元にある会話でした。直面している状況に、一喜一憂するものですが、過去のこととして振り返る時には、どの経験も思い出になっています。辛い記憶にも、時間が経つと親しみが加わるように思えます。今回の駒カフェは、東日本大震災から12年です。報道番組。辛かった被災経験を糧に、今を楽しんでいる被災者の姿から、試練を超えた強さを感じました（被災直後には、研究の立場で現地調査）。経験や思い出としては、類似なのでしょうか。
- 生徒2人のテーブルでは、60年の年齢差で、余暇の過ごし方の違いを実感しました。ゲーム機やスマホの生活は、60年前には空想の先の世界でした。中学時代の共通点は、「熱中」。しかし、

成長期に仮想世界で長時間を過ごすことに、違和感を覚えます。そう言いながら、60年前。漫画に夢中になっていると、小説を読めと強く注意されたこと、普及し始めたTVを見る時間や番組を制限されたこと、を思い出します。

- 駒カフェの開催報告をご覧になって、興味を持ち、参加してみようかと思われた方は、下記に記載の運営事務局までご連絡願います。次回以降の駒カフェ開催案内をメールで送らせて頂きます。
- 本校のホームページで、「駒カフェ」のバナーをクリックすると、駒カフェの情報を見ることができるようになりましたのでご覧ください。

[2023年度 第1学期の予定]

第22回 (在校生対象)	2023/4/15 (土) 13:00~15:00	第1会議室
第23回 (保護者対象)	2023/5/27 (土) 13:00~15:00	第1会議室
第24回 (在校生対象)	2023/6/17 (土) 13:00~15:00	第2会議室
第25回 (在校生対象)	2023/7/15 (土) 13:00~15:00	第1会議室



「三世代をつなぐ駒カフェ」運営事務局

代表 黒岩 誠 (駒場東邦7回生/前スクールカウンセラー)

平野 勲 (駒場東邦スクールカウンセラー/前校長)

連絡先 komacafe1540001☆gmail.com

☆を@に変えてください。

駒カフェ  でお会いしましょう!